

地震の石碑
(22)

東海道線根府川駅周辺の地震の石碑（その2）

東海道線根府川駅周辺の地震の石碑については、観測だより、通巻第23号（神奈川県温泉地学研究所報告、第15巻、第1号、26—29、1983、地震の石碑(19)）に（その1）を載せました。今回は根府川駅構内に建てられた関東大震災殉難碑と旧国道135号線の道沿いに建てられた大震災歿死者菩提の五輪塔について書きました。

大正十二年の関東大地震で、根府川駅周辺は大変な被害を受けました。白糸川流域で起きた大規模な山津波による被害は良く知られています（観測だより、通巻第37号（1988）、関東大地震の根府川山津波、長瀬和雄）。この山津波で64戸の民家が押しつぶされました。根府川駅正面の山で発生した地滑りでは、駅のホームに差しかかっていた下り列車が線路ごと押し流されて、断崖下の海中に没しました。

根府川駅周辺では、今回紹介するものをあわせて全部で五つの地震の記念碑を見ることが出来ます（図1）。関東大地震によるこのあたりの被害の大きさが、石碑の数からも想像できます。

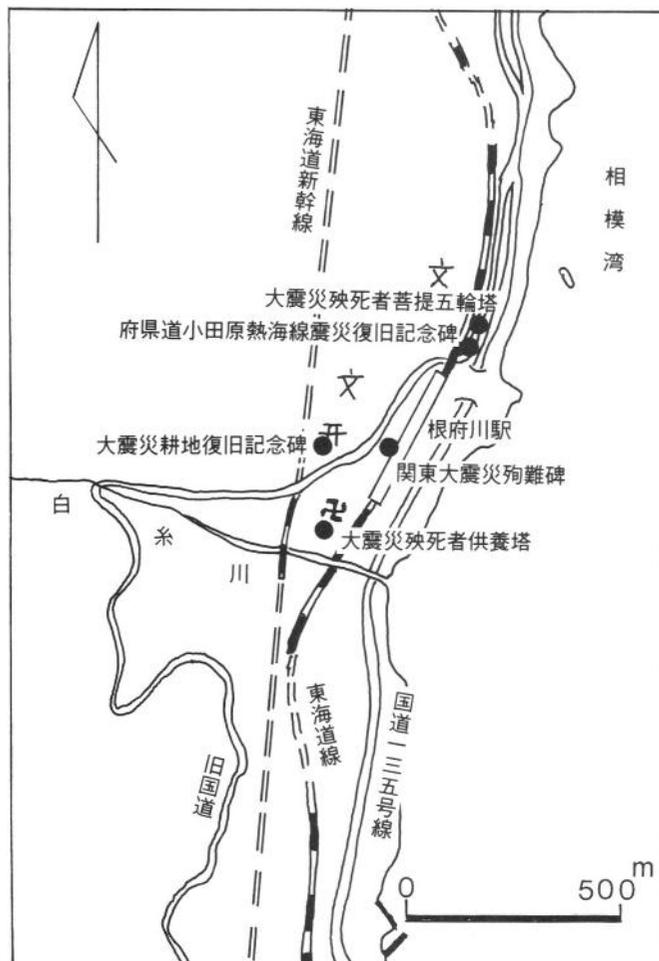


図1
東海道線根府川駅（小田原市）付近に
分布する地震の石碑



写真1 岩泉寺の大震災歿死者供養塔

大震災歿死者供養塔

大正十二年九月一日午前十一時五十八分俄然大震災アリ同時ニ山津波起リ老若男女二百餘人歿死セリ甚タ悲惨ノ至リニ堪ヘス茲ニ遺族一同共ニ丹悃ヲ協セ歿死者菩提ノ為大供養塔ヲ建立シ以テ永ク精霊ヲ祭ル者也

大正十四年八月十二日

遺族一同建之

海蔵実英書(ただし、碑文は縦書きです)

大震災歿死者供養塔 (写真1)

根府川駅から西の白糸川の方向に150mほど歩くと寺山神社があります。この神社には後ほど立ち寄りとして、先にこの神社とは道を隔てた海側にある岩泉寺に行きます。本堂の前に大きな自然石に大震災歿死者供養塔と彫り込まれた碑が建っています。

本来の岩泉寺の参道は白糸川の流れる西側にあり、石段を上がって境内に立つと白糸川が眼下にみわたせます。この寺の境内は白糸川から一段と高い所に位置しているので、山津波の被害は受けなかったと言います。

大震災耕地復舊記念碑 (写真2)

岩泉寺から寺山神社に引き返すと、本殿の玉垣の前は駐車場になっていて、その左手に石碑がたくさん建てられています。地鎮神、浅間大神、山県有朋書・日露戦役彰忠碑、皇紀二千六百年奉祝碑、根府川樹園地かんがい事業完成記念碑、それにこの大震災耕地復舊記念碑があります。

府県道小田原熱海線震災復舊記念碑（写真4）

根府川駅から小田原方向に100mほど歩くと、東海道線の根府川架橋が架かっています。東京駅から90.181kmの所で、この架橋の下をくぐり抜けると左に90度大きくカーブして根府川陸橋に連なります。目の前には相模湾が大きく広がっています。

この陸橋は付近の道路改良工事で架けられたもので、この工事の際に、倒れて草の中に埋もれていた府県道小田原熱海線震災復舊記念碑が発見されました（写真5）。これが昭和59年に再建されたので、今では大震災犠死者菩提の五輪塔と共に二つの地震の記念碑がここに建っています。



写真4 根府川陸橋のたもとに再建された
府県道小田原熱海線震災復舊記念碑

地平天成

府県道小田原熱海線震災復舊記念碑

神奈川県知事正五位勲三等 遠藤柳作 題額

大正十二年関東大震災ノ為メ府県道小田原熱海線ハ路線一帯崩壊シテ更ニ原形ヲ留メス其ノ惨状言語ニ絶セリ知事安河内氏即時其ノ復舊ヲ畫シ国帑ノ補助ヲ請フ内務省ハ技師牧野雅楽之丞氏ヲ派シ県土木課長高田影氏等之ニ随ヒ実情ヲ踏査ス災後日浅ク余震頻々断崖絶壁崩落ノ虞アル中ヲ跋涉シテ漸ク工程ヲ測リ翌年四月初メテエヲ起スニ至ル歴代ノ知事安河内麻吉、清野長太郎、堀切善次郎、池田宏ノ四氏銳意其ノ速進ヲ図リ県土木部長三輪周蔵氏高田氏ノ後ヲ承ケ大ニ努カスル所アリ小田原土木出張所長三宅静太郎氏史僚ト共ニ夙夜業ヲ督シ工事請負者亦奮励工ニ從ヒ沿道町村長熱心之ニ後援シ地方ノ住民亦競フテ之ニ寄与ス昭和二年九月総工費約五十七萬五千圓幅員五米半延長一萬七千二百十八米余ノ府県道ハ遂ニ全クエヲ竣フ工ノ最モ難カリシハ米神根府川間ニシテ百歩九折ノ舊道ヲ海岸ノ最短路線ニ變更シ鐵路ト交又スル所其ノ下ヲ掘鑿シテ通ス工費實ニ約二十萬圓由來小田原熱海線ハ温泉地帯ニ通スル海岸絶勝ノ景ヲ占ムト雖モ千仞ノ断崖ニ沿フ所多ク迂余曲折行路艱難ノ歎アリシカ今ヤ則一路坦坦万障悉ク除カレ山姿水容更ニ其ノ美ヲ加工交通運輸ニ利シ殖産興業ニ益シ國家經濟ト文化開発ニ貢獻スル所偉大ナリト謂フヘシ茲ニ其ノ不滅ノ功績ヲ録シテ後代ニ傳フ

昭和七年六月

神奈川県土木部長 地方技師從五位勲六等 田辺良忠 □□

神奈川県道路主事從七位 田口高重郎 □□

(裏面)

寄付者名

廣井浅太郎ほか 14 名
富士箱根自動車株式会社
小田原自動車業組合員一同
湯河原振興会
湯河原自動車株式会社

発起人 小田原町長 中田寿一郎
早川村長 国見惣三郎
片浦村長 稲子久太郎
岩村
眞鶴町組合長 松本 赴
福浦村
吉浜村長 岩本福太郎
湯河原町長 杉本清三郎
小田原土木出張所長 長岡土市

(ただし、碑文は縦書きです)

(神奈川県温泉地学研究所 平野富雄)

大震災なきこと祈り

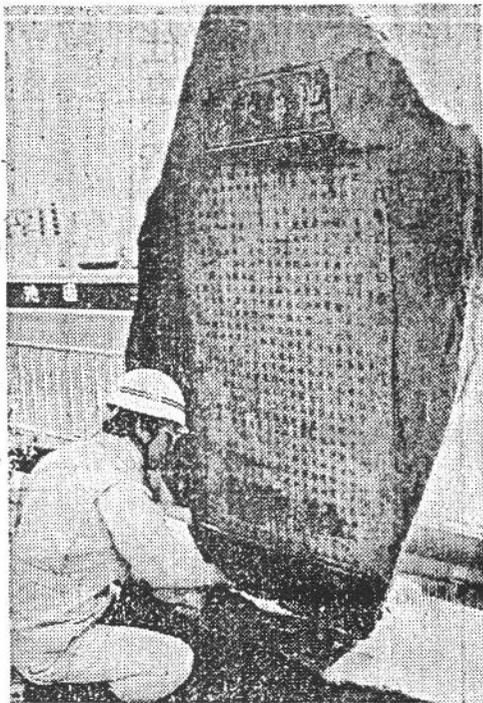
小田原市「復旧記念碑」を再建

小田原市根府川の国道135号(旧道)の国鉄東海道線との陸橋付近の道路改良工事が完成したが、工事中に発見された関東大震災復旧記念の石碑が九日、道路わきに再び設置された。同地区は関東大震災で大きな被害を受けた。県小田原土木事務所では今後地震で大きな被害が無いよう折って再建したという。

今回の工事区間は延長百九十メートル、幅が狭く、直角に近いカーブのため大型車のすれ違

いができなかった。そのカーブをゆるめるため海側に張り出して陸橋を架けた。その橋げたは、地面が軟弱なため地下二十メートルの深さまで打ち込まれた。道路の幅は三メートル増えて八・五メートル、国鉄のガードも一メートル高く四・五メートルになった。五十七年着工で、総事業費は二億五千万円、再建された石碑は昭和七年に建てられたもの。根府川地区は大正十二年、関東大震災で地形が変わるほどの被害を

受けた。国道135号も方々ガタになり、復旧工事が行われた。期間は、大正十三年から三年五カ月、延長十七・二キロ。現在のお金に換算して総事業費二十七億円。その中でも根府川、米神間は難工事の連続。約二キロを復旧するのに総事業費の三分の一かかった。当時の道は断崖(がけ)に沿って右に左に急カーブが続いていたという。完成を記念して道路わきに



設置された大震災復旧の石碑

石碑が建てられたが、いつの間にか倒され、草にすもまれて地元の人たちからも忘れられていた。

発見された。高さ二メートル、幅一・五メートル、厚さ二十センチの大きなもの。地元の小松石製。上部に「地平天成」の文字、中央に工事の経過が彫られてお

り、余震が続く中、ガレキの山を歩いて測量したことなく工事の難しさが明らかになっているという。

写真5 府県道小田原熱海線震災復旧記念碑の再建 (昭和59年4月10日、神奈川新聞)